

## 日ごろ健診を受けない人をターゲットに“簡易チェック” 糖尿病の早期発見を促すかかりつけ薬局

あやせ薬局 (東京都足立区)

糖尿病患者やその予備軍の数は、増加の一途をたどっている。2007年の国民健康・栄養調査によれば、その数は2210万人にも上ると推定される。一方、定期的な健康診断などを受けないために、糖尿病の発見が遅れるケースも少なくない。そうした人たちをいち早く拾い上げるため、あやせ薬局では店頭でHbA1c値を測定し、早期発見を促している。

JRと地下鉄の綾瀬駅近くに2店舗を展開するあやせ薬局(飯泉千春社長)は、調剤とともに一般用医薬品の販売などを行う町の薬局だ。同薬局では、2010年10月から店頭で簡易測定器を置いてHbA1c値を無料で測定し、地域住民の糖尿病の早期発見の支援に力を入れている。

このHbA1c値測定プロジェクトは、筑波大学大学院の矢作直也氏を研究班の班長とし、足立区、足立区医師会、足立区薬剤師会、地域の糖尿病対策を推進するNPO法人ADMS(アダムス)の共同研究事業として、5年間の予定で始まった。薬局という地域の人たちにとって“アクセスしやすい場”を使って簡易検査をすることで、糖尿病の早期発見率の向上などの有効性を確認するのが目的だ。2013年4月現在、足立区内の10件の薬局がこのプロジェクトに参加しており、既に測定した人の数は1500人にも上る。

### 敷居の低いやり方が“健診弱者”を救う

実は、足立区は糖尿病の罹患率が東京都や全国の平均より高い。「生活習慣が乱れがちで、自分が糖尿病だと気づかずに放置している人も多い。そうした人たちに、自分の状態を気軽にチェックしてもらい、透析などに至る前に、早期発見につなげるのがこのプロジェクトの狙いだ」とあやせ薬局本店の長井彰子氏は話す。

測定にあたっては、薬剤師が自己穿刺による採血の方法を測定希望者に教え、希望者自身が採った血液を、薬剤師が簡易測定器で測る。結果が出るまでの時間は約6分とあっという間だ。測定後は、その結果について説明し、異常が疑われる場合には、医療機関への受診を促すという。測定するのはHbA1c値のみだが、糖尿病患者の場合、高血圧や脂質異常症を併発していることも多いため、生活習慣病全般の発見や、本人の意識づけにも役立つよう



あやせ薬局と管理薬剤師の長井彰子氏。



だ。あやせ薬局では、これまで約500人に測定をしているが、全測定者の約3割が異常値だったという。

薬局で測定する最大のメリットは、利便性の良さと検査までの敷居の低さだ。「あやせ薬局は午前9時から午後7時まで開いており、利用者の都合に合わせて予約なしで測定できる。買い物のついでに立ち寄ってみるという人も多く、わざわざ医療機関に足を運ぶのをためらう人にも利用しやすい。また、主婦や自営業者など、日ごろ健診を受ける機会が少ない“健診弱者”にも向いており、潜在患者さんの掘り起こしには、薬局の存在意義が大きい。薬局が地域の人たちの健康チェックの場であることや、健診の必要性を理解してもらうこともできる」と長井氏は説明する。

一方、薬剤師にとってのメリットもある。薬剤師は測定を受ける人への説明やコミュニケーションのため、糖尿病や生活習慣病に関する勉強をする必要がある。その結果、スキルアップが図れ、一歩踏み込んだ説明や服薬指導ができるようになるという。

「HbA1c値の簡易測定は、日ごろ処方せんを持ってきてくれる人の後ろにいる、調剤を利用しない家族へのアプローチの手段にもなる。それも、地域のかかりつけ薬局としての役割といえるだろう」と長井氏は話す。



測定では、利用者自身に採血してもらうため、薬剤師が自己穿刺の方法を説明。簡易測定器に入れて結果を待つ。

